

会 議 録

会議の名称	第5期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会 第5回会議録
開催日時	令和7年11月7日（金） 午後1時から3時
開催場所	田無第2庁舎 3階 会議室
出席者	<p>【委員】 藤本座長、小原委員、福岡委員、小田委員、金澤委員、菅野委員、岩田委員、佐伯委員、森澤委員、森田委員 欠席：鈴木副座長、島委員、小原委員、榎本委員</p> <p>【事務局】 大庭図書館長、山田副主幹</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 第4回会議録の確認について 2 IV 乳幼児を対象とした取組について 3 V YA世代を対象とした取組について 4 次回懇談会のテーマ及び分担について
配 布 資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 IV 乳幼児を対象とした取組について【前文】（案） 2 IV 乳幼児を対象とした取組について【1 保育園】（案） 3 IV 乳幼児を対象とした取組について【2 児童館】（案） 4 IV 乳幼児を対象とした取組について【3 図書館】（案） 5 V YA世代を対象とした取組について【前文】（案） 6 （2025年11月7日再配布）第5期子ども読書活動推進計画策定懇談会日程
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><議題1 第4回会議録の確認について></p> <p>第4回会議録について、修正箇所を確認し、会議録として承認した。</p> <p><議題2 IV 乳幼児を対象とした取組について></p> <p>○座 長：各ご担当に作成いただいた原案は、事務局から事前に送付している。前文は本日欠席の■■委員よりお預かりし、起草委員会のメンバーは■■委</p>	

員の原案に事前に目を通し、修正後この形になっている。あらためて本懇談会でご意見いただきたい。

- 委員：文章中の「認識絵本」「生活絵本」は、一般的にはどのような絵本を指すのかわかりにくく、区別がつきにくいと思う。乗り物絵本や動物絵本などはわかる。「認識絵本」「生活絵本」に注釈をつけると、かえってわかりにくくなるような気もする。もっと一般の方がわかりやすい言葉はないか。図書館の方にもお聞きしたい。
- 座長：起草委員会でも「認識絵本」はわかりにくいとの意見は出たが、会議では注釈をつけるという方向で結論が出た。
- 委員：「生活絵本」とは具体的に何を指しているか。
- 委員：図書館員は、子どもの生活、特に食事や睡眠や遊び、運動など、生活に密着した子どもに身近な事象を取り上げた絵本のことという認識はある。ただ、確かに市民が見たときに、「生活絵本」とすると、しつけや手洗いの習慣など、身につけるべき生活の習慣を思い浮かべる方もいるようには感じた。「認識絵本」も、図書館員としては想像できるが、福岡委員がおっしゃっていたように、注釈をつけるより、「知識絵本」「言葉を楽しむ絵本」とした方が、一般の方がよりイメージしやすいかもしれない。
- 委員：「認識絵本」は例えば「いないいないばあ」のようなタイプの絵本か。「生活絵本」は大豆ってどんなもの？という類のものか。やはり分類がわかりづらく感じる。
- 委員：「認識絵本」「生活絵本」は、一般的でないということで、これをとって、「乗り物絵本や動物絵本に加え、簡単なストーリーのある絵本を楽しめるようになります。4歳頃からはお気に入りの絵本ができたり、しっかりとした筋のあるお話を楽しむことも増えます」とするのはどうか。発達的には、4歳頃から起承転結があるものが楽しめるという理解でよいか。
- 委員：そうだが、全員がそれに伴うかということ、発達の差があるので、どちらかということ3歳に近い感じの絵本を楽しむ子もいる。大体そのようになっていく、くらいの感じに捉えられればいいのかと思う。
- 座長：「認識絵本」「生活絵本」という言葉が分かりにくいので、この2つは削除し、「乗り物絵本や動物絵本などに加え、簡単な物語も楽しめるようになります。4歳頃からはお気に入りの絵本ができたりしっかりとした筋のあるお話を楽しむことも増えます」となるがいかがか。
- 委員：子どもたちの様子を見ていても、イメージをすることが少々難しい子どももいるので、5歳でも確実に素話を楽しめるかということ、そうとも言えない。4歳は簡単な短いものの言葉遊びを楽しむところから入って、後半で少しずつ長めの話が聞けるようになるが、どうしても個人差がある。

- 座 長：起草委員会でも、この年齢に沿ってみんながそうなるわけではないという話は話に出て、そのために、全てに3歳「くらい」とか4歳「頃」というのをつけた。素話は、「4歳頃からはしっかりとした筋のあるお話を楽しむことも増えます」として、「5歳くらいになると素話も聞けるようになります」という表現ではどうか。原案だと、素話を4歳から聞けるようになるというように解釈できてしまうか。
- やはり、絵本の種類を厳密に分けていくことは難しいため、「乗り物絵本」や「動物絵本」が、3歳くらいの低年齢の子が楽しめる絵本を一般的に示しているということで、このような文章に変更したいと思う。素話は、注付きで残すこととしたい。
- 委 員：「子守りうたや、わらべうた、また好きな絵本を聴いての温かい語りかけを繰り返し体験しましょう」こちらの主語は誰か。
- 座 長：主語が誰かというのと、やはり子どもが体験してほしいのだが、この年齢の場合、大人からの語りかけと働きかけで、大人も一緒に体験するという気持ちがある。一方的に大人から子どもへではなく、大人も子どもも一緒に体験しましょうという意図でこのような文章にした。日本語的に正しいのは「させた」だと思うが、気持ち的には一緒にやろうね、大人も子どもも体験しようね、という呼びかけるような感じで書いたので、主語をはっきりさせなければとは考えていなかった。しかし、「させる」の方がわかりやすいか。
- 委 員：「体験させましょう」は違和感がある。温かい語りかけの時間を楽しみましょうということだから、親子だけでもなく、先生でもおばあちゃんでもよい。「温かい語りかけの時間を楽しみましょう」でどうか。
- 委 員：ポジティブで良いと思う。
- 座 長：それでは、前文は終わって、次は保育園の取組について、菅野委員から簡単にご説明をお願いしたい。
- 委 員：第4期では、「保育園における図書館の活用推進」が、(2)前計画に引き続き推進する取組 に入っていたが、公立10園で状況を確認したところ、現在図書館の利用については、コロナ禍で一回ストップしてしまってから、少し足が遠のいているという現実が見えてきた。その点を踏まえ、もう一度図書館を利用しながら、絵本に触れていこうというところで順番を変えた。5期は、(1)今後充実していく主な取組の中に、「図書館の活用推進」という項目が入っている。
- 4期(1)の「クラス内の絵本コーナーの充実」については、(2)に入れた。項目の細かな文言が変わるというよりは、順番を入れ替えるという点での修正となっている。
- また、「貸出絵本コーナーの充実」に関しては、それぞれの園で整備をし

ながら環境を整えているというところもあったため、整備充実という形で文章を付け加えている。

○座長：順番が変わっている、項目が移動しているという理由がよくわかった。起草委員会の中で幼稚園への取組について言及があったが、西東京市には公立の幼稚園がなく、すべて市立幼稚園のため、市の計画上、幼稚園への取組を入れるのにはハードルが高いという点について、これを解消するのが難しいということを聞いている。

もし何かいいお知恵があったら、拝借したい。

○委員：行政的に私立幼稚園の園長にこちらに来てもらったり、計画に関わっていただくということが現実的に難しいということもあるのかと思う。

図書館の取組では、「乳幼児施設の読書環境整備」が上がっているが、現実として、幼稚園に現在どのような支援、連携をされているか、実例を教えてください。

○委員：幼稚園への働きかけについて、施設として本を借りることができる団体の利用登録については、今年度有効な幼稚園の登録は市内の私立幼稚園14カ所のうち2件だった。

コロナ前には一定の幼稚園の団体利用があった。また、年に1回程度、幼稚園のカリキュラムの一環で、図書館に子どもたちが来て図書館の施設の案内やお話し会、その場で園児が本を選んで貸し出しをする、また団体配送で幼稚園に貸し出しするなど、図書館を利用する幼稚園もあった。

しかし、コロナによって一旦そのような幼稚園の利用がほぼなくなった。最近、また登録をしてもらって、利用してくださる動きもある。

幼稚園は、独自の運営やカリキュラムがあるなかで、図書館が幼稚園にお邪魔するというようなことが難しいという認識はある。

団体貸出などのサービスを継続したり、あらためて幼稚園さん向けのサービスがあることを周知したりご案内するということは、これからできるのではないかと考えている。

○委員：やはり、全園へ児童担当が出ていくというのはかなり厳しいと思うので、今おっしゃったように、図書館へ来ていただくという方向で取組を進めていくのはよいと思う。

以前、学校図書館に勤務していた時、学校から公共図書館へ見学に行くときに、全員の児童にカードを作りませんかというお知らせを担当の先生から保護者の方に出してもらうなどし、子どもが必ず図書館カードを持っているということを大事にしていた。幼児さんでも、そのよう形で団体貸出や、子どもも個人カードができますということをお便り等にご書いていただければとてもありがたいと思う。

○座長：幼稚園に対する働きかけは、図書館の方で充実させる、この章では、保

育園の取組についてまとめていくことになろうかと思う。

- 委員：「発達段階に応じた絵本を設置した絵本コーナー」について、「設置する」というと、機関とか施設とかのイメージがあるが。
- 図書館長：絵本を「集めた～」としてはどうか。
- 委員：そのように言い換える。
- 図書館長：保育園の取組について、この中に記載はないが、国の基本方針の中で、「多様な子どもたちへの読書機会の確保」があるが、障害のある子ども、日本語指導を必要とする子どもなど、多様な子どもの可能性を引き出すための読書環境整備がある。保育園では、こういった取組にも触れることができるかどうか。保育園の実情として、今やはり外国籍の子どもを預かったり、ハンディキャップをお持ちの子どももいるかと思うが、多様な支援の向けた取組状況があれば教えていただきたい。また、その点を計画に加えることができるか。
- 委員：やぎさわ保育園でのことになるが、外国籍のお子さんや加配が必要なお子さんと一対一で絵本を読む機会や気持ちを落ち着かせるような時に絵本を読むことはある。しかし、ご質問のような多様な支援に向けた取組は、普通の日中の保育の中での関わり以上に、特段行っていないので計画に記載するようなことはない。
- 座長：次に、児童館の取組について、■■委員からご説明をお願いしたい。
- 委員：児童館も前期計画から大きく変えてはいない。(2)今後充実していく主な取組の「遊びの中の図書室を発信」のところで、「本を手に取り楽しむことができ貸出もできる場」という文言を追加している。あとは「図書館と連携」が新しく入れた点である。
- 委員：書き方の点についてだが、図書館との連携で、「図書館員が児童館に向き」とすると、図書館が主語の活動のようになるので、「図書館員を招き」という表現で、児童館としても図書館に行く機会を創出していきますというように整理した方が良いと思ったがいかがか。
- 委員：これは、児童館が依頼している事業ではなく、図書館から打診されて来てくれている現状がある。「招く」という表現でいいのか。図書館の意見を伺いたい。
- 委員：おっしゃる通り、図書館から提案して、今年度も「おでかけおはなし会」をやらせていただいている。各施設さんのご協力あつての事業であり、今後どう展開していくか変化する可能性もあるが、図書館の取組に「司書の派遣」があり、「おでかけおはなし会」も含んでいる。この事業の名称は変わる可能性がある。このため、例えば「図書館の司書派遣を活用し」のような表現としてはどうか。

- 委員：「司書の派遣」という表現がよいかと思う。
- 座長：「おでかけおはなし会」を取り、「図書館の司書派遣を活用し、本の読み聞かせや図書館のお話し会、絵本講座の案内などを行い、図書館に行くきっかけを作る」という表現が、状況をよく表しているか。
- 委員：本の読み聞かせと図書館のお話し会は同じではないか。お話し会は本の読み聞かせをする会である。
- 委員：図書館の方が来て、児童館で本の読み聞かせをやってもらうことで、図書館のことを認知して、図書館のお話し会などにも行ってもらいたいという意味合いである。児童館での読み聞かせ会のことで一回切って、その後図書館のお話し会、絵本講座の案内という形の方がいいのかもしれない。
- 座長：「図書館の司書派遣を活用し、児童館での本の読み聞かせ会を行います。そこで図書館のおはなし会、絵本講座の案内などを行い図書館に行くきっかけを作ったりします」となるか。
- 委員：「児童館には」周りに気兼ねなくの文章について、「児童館は」ではないか。また、「同業者」ではなく「同著者」ではないか。
- 委員：転記ミスのため修正する。
- 座長：内容だけでなく文字の間違いも気づかれたらご指摘いただきたい。
次に、図書館の取組については森田委員からご説明を。
- 委員：幼稚園へのアプローチについては、先ほど申し上げたように利用の案内をあらためて私立の幼稚園にもやっていくようなことができると思っている。また、毎年実施している除籍絵本の配布事業で、現在も、幼稚園にも案内はしているが、引き続きより事業を知ってもらえるように、周知していくということも踏まえ、「乳幼児施設の読書環境整備の支援」のところに、具体的に施設さんの名称を入れて、あらためてわかりやすく知ってもらえるように事業を行っていく。
- ご意見をいただいた中で、「ちびっこおすすめ絵本パック」という赤ちゃん向けのおすすめ絵本パックの貸出について、「このパックの後にどのような本を手にとったらいいか、ヒントが欲しい。そこからまた発達段階に合わせてのアプローチがあると良い」という声があった。
- 「ちびっこおすすめ絵本パック」の次は、『はじめまして』に載っている本をおすすめしたい。その次は、3から5歳向けに作っているおすすめの本リスト『えほんだいすき』というブックリストをぜひ活用いただきたい。現状でも図書館で展示はしているのだが、そういったものをより必要としているお子さんや保護者にわかりやすく伝わるように継続して行うと同時に、情報を伝えるために広報を展開していくということで、その点を追記している。
- また、「図書館利用に困難がある子どもへの支援の充実」については、前

期では行っていなかった布の絵本の収集や提供も進めていきたいということで入れ込んでいる。出版状況も近年変化しており、布の絵本や点字図書だけではなく、「LLブック」という視覚的にわかりやすく、日本語がまだわからない外国籍の方にも手に取ってもらえるようなジャンルの本も出てきているため、今回入れ込んだ。ここは、小学生への取組と同様、「いろいろな読書コーナー」やハンディキャップサービスの利用案内を活用して、必要とする子どもや保護者に届くような広報や情報提供に努めることを追加している。また、日本語を母語としない子どもと保護者については、やさしい日本語の活用などでよりわかりやすく伝わりやすい情報提供という点を継続していきたい。

○座長：新しく入れられた「LLブック」が聞き慣れないか。注釈は必要かと思う。

○委員：「LLブック」について、今急速に出てきているが、内容には差があるため、そこを丁寧に選んでほしいと希望する。

また、『えほんだいすき』について、例えば、保育園などを通じて、その年齢の3歳のお子さん全員に配るなどの考えはあるか。

○委員：『えほんだいすき』に掲載している絵本は、本当に良い本だと自負しているため、幅広くたくさんお子さんに手に取ってもらいたいところではある。しかし、全施設や市の全お子さんに配布というところは、紙のブックリストの印刷という点で、予算の伴う事業であるため明言はできないが、要望を出していきたいと思っている。しかし、現実的には全施設、全児童数配布というところは、難しいと感じている。

○委員：予算が伴うため、幼稚園の3歳児として入った子に配布するのはどうか。3歳くらいから絵本の世界が広がる時期に入る。ブックスタートも本市は大変しっかりやってくださっていて、そこで3歳児フォローの一つの施策としてもご検討いただければと思う。

○座長：他はいかがか。読みにくい点も含めてご指摘をいただきたい。
では、ないようなので、「YA世代を対象とした取組」にうつりたい。

<議題3 V YA世代を対象とした取組について>

○座長：前文のご担当が早く文章を書いてくださり、こちらに参考資料として用意されているが、起草委員会ではまだ精査していない文章である。

あらためて、今日までにYA世代のところを読んでくださっていると思うので、委員からご意見をいただきたい。それを踏まえて、次回の起草委員会で考えていきたいと思う。

その他、前文だけじゃなくて、各機関の取組についてもご意見を寄せてほしい。

副座長から、図書館の『道しるべ』の見直しの箇所について、「この資料の活用はされているか」また、「「セレクト本」の活用はされているか」というご質問が寄せられている。現状について図書館からお話いただきたい。

- 委員：まず、資料の活用について、市民の方なのか図書館なのかというところで読み取れずにいたが、図書館での活用と取ると、全館で『道しるべ』の別置シールを貼り、すいせん図書コーナーで「道しるべの本」を集めて、展示という形での活用をしている。
- あとは「セレクト本」については、小学校に比較すると数が少ないが、昨年度も貸し出しがあり、団体貸出という形で活用されている。
- 委員：関連する質問だが、『道しるべ』について、中学校は小学校の『で・あ・い』と同様に、教員または学年にどのように配布されたか。また、学校や生徒さんからどのような反応があるか。
- 委員：発行された年度に各中学校には配布している。ただ、部数としては各校4部から5部程度、副校長先生や学校司書、教員の方に活用してほしいということで、少部数ではあるがお送りしている。
- 委員：学校司書さんには一部ずつ配布されているか。
- 委員：副校長宛てにお送りして、その中に学校司書用に1部お入れしているため、学校さんの方でお配りいただけていたらお手元にあると思う。
- 委員：小学校の『で・あ・い』よりも中学校の『道しるべ』の配布数が少ないという認識でよいか。続けて、■■委員にお伺いしたい。配布後、各中学校でコーナーを作るなど、活用状況についてお聞きしたい。
- 委員：学校長、副校長宛、プラス学校司書宛にいただいている。ただ、部数が少ないため図書館に展示してある。司書はそれを選書の際に利用しており、子どもたちが見ることもできるように展示をしている。
- 全中学校の状況は把握していないが、自身の勤務校では、過去の『道しるべ』についても展示はしている。
- 委員：関連する質問で、司書さんがブックトークを、児童向けに授業を使ってされているという事例はどの程度あるか。
- 委員：私はまだブックトークを依頼されたことはないが、前任の司書が国語の授業の際に依頼されてブックトークをしていたと聞いている。
- 委員：各中学校でどの程度司書さんがブックトークを授業内でされているか。教科を問わないが、その事例は把握されているか。
- 委員：把握していない。
- 委員：今の配置状況で、それを司書さんに要求するのは高すぎる要求だと市民としては理解している。今回の文章を書くときに、活かせるところは活かしていただければと思う。

- 座長：副座長から、情報発信について、「ヤングアダルトに向けた発信をどう行うか、『CATCH』以外にツールはないのか、市の情報発信ツールで載せられる場所はないのか」というご質問がきている。また、「子ども電子図書館はとても子どもっぽい、YA世代は近寄りにくいんじゃないかということ、もう少しつながりたくなる設計を考えるべきではないか」というご意見をいただいている。
- 委員：情報発信については、『CATCH』は10代の編集委員と図書館員が作っているブックレットで、一番大きく打ち出しているところは『CATCH』であるが、図書館では「パスファインダー」も作っており、テーマを設定してそれに合った知識の本や物語の本を集めた本の情報として、発行している。例えば、SDGsをテーマにしたものや、YA世代と職業ということで、仕事に関する「パスファインダー」をなどを作成している。あとは発信のツールということであると、図書館のホームページや電子図書館のページがメインになっているのが現状である。市の情報発信ツールで載せられる場所はないのかとご意見いただいているが、こちらもYA世代がよくアクセスするツールというものは、あまり活用できていない状態である。単発のイベント情報などは、TwitterやインスタグラムなどのSNSを活用することもある。
- しかし、YAのイベントの参加状況などを見ると、やはり学校でポスターを見たとか、保護者が情報を提供してくれたとか、学校司書さんが情報を提供してくれたというアンケート結果もあり、YAに直接情報発信するのももちろんだが、YAの身近な大人、保護者の方や学校司書などへのアプローチも有効だと考えている。
- 子ども電子図書館については、あらためて、次回の懇談会で発表させていただきたいと思う。
- 座長：電子図書についてはまた次回以降というところで、今回はYAのページについて文章を検討していくことになるので、自然に話題に上ってくるかと思う。
- ちなみに、手前味噌で申し訳ないが、武蔵野大学の文学部で学生が選書をさせていただいて書架一つお任せいただいて、大学生が選んだ本を並べさせていただいているが、こうした取組も、YAに向けた発信的なものかなと思っていた。
- 委員：たしかに、武蔵野大との連携も最近はずごくやらせていただいている、中央図書館での「武蔵野大学生によるおすすめの本の展示」もその一つである。絵本もあれば一般書もあり、それぞれの学生さんの個性が出る楽しい展示と思っている。西東京市図書館としては、YA世代をおおむね13歳から18歳としているため、大学生の位置づけが難しいところだが、そうい

った形の発信もやっていただいているということは知ってほしいと考えている。

- 座長：最近、中学校の司書の方とお話しする機会があって、中学生がYAを読まないと聞いた。YAというジャンルに全く手を取ろうとしないと。読める子はどんどん大人の小説などに行ってしまうし、読めない子は読書力がついていけなくて、もっと軽いものとか漫画とかアニメとかに行ってしまうっていて、空洞化しているという。
- そんな中で、どうやってYAに向けて読書を楽しもうと発信をしていくのかというところで、武蔵野大の学生がさせていただいているのは、ジャンルに関係なく、若い人が読んで面白かった本で書架を作るというようなものなので、YA世代に向けては、YAというジャンルにこだわらないで、様々なジャンルから、こんな面白い読み物あるよというのを見せていくことができたらいいのかなと考えていた。
- 他に皆さんから、この世代に向けての読書活動ということで、何か考えていることとか、聞いて気になっていることなどあればお聞かせいただきたい。

- 委員：公共図書館が作っている「パスファインダー」は大変よくできている。それを授業で先生方が活かせるようになるとうい。学校司書さんを通して、教科の先生や保健の先生などに、「パスファインダー」や図書館の調べるための機能を知ってもらえるようになるとういのではないか。

- 委員：今おっしゃったように、図書館でとてもいいものを作ってくださいって射って、先日、1年生のふるさと探究学習で何か資料ありますかと先生から聞かれて、図書館にあるものも提出したのだが、中央図書館の地域・行政資料室で、郷土資料をいろいろお借りして提示をした時に、西東京図書館のデジタルアーカイブを紹介したところ、それがすごく良くできていて、授業に使えたということで、そういう紹介をしていただけてよかったとおっしゃっていただいた。
- そのようなツールを中学生は知らない、見つけられないので、本と合わせてホームページから得られるネットの資料、良質な情報を知る機会になったと思っている。
- 図書館から、小学校には「まちなか先生」としていろいろ来ていただいて、図書館の作ってらっしゃるものをいろいろ紹介していただいているが、中学校にもそういう機会があって、このような貴重な資料がアーカイブで見られるということを知らせていただくとか、他にもいろいろ貴重な資料がホームページには載っていると思うので、そのような資料の活用の仕方なども教えていただけると、中学生の調べ学習の幅も広がるのではないかと思う。

- 委員：今のご意見がとても参考になったので、今後充実させていけたらと思う。今年度の実績としては、YAと職業というテーマで、「まちなか先生」として中学校に司書派遣を行い、授業時間を活用して、4クラスで職業に関するブックトークをやらせていただいた。学校のご協力あつての実施ではあるが、また利用していただけるように、計画を練っていききたい。
- 座長：副座長が出してくださった前文の文章について、■■委員が具体的に出してくださったご意見を預かっているので、これをお伝えするということがよいか。
- また、メールなどでお寄せいただけたら、起草委員会まで少し時間があるため、活かしながら文章を練っていききたいと思う。
- 委員：学校の取組の中で、「読書指導の充実」の「課題図書を選定し、合同書評会を毎年実施することで、読書の楽しさを伝えます」という文章に対して、鈴木副座長がおっしゃっていただいた意見（これはぜひ毎年行ってほしいです）について、私はこの合同書評会に参加をしたことがないので、実施していた司書にいろいろ聞いてきたのだが、「参加した生徒たちからは、本当に楽しかった、本を通じて今まで知らなかった他の中学の人たちとも交流ができ、世界が広がった、という感想があげられており、とてもいい取組だった」と言っていた。学校司書同士もこの合同書評会を通して、いろいろな情報を交換することで、司書としてのやりがいを感じていた。平成17年から令和3年度まで実施していたようだが、それ以降はやっていない。ただ、この合同書評会をやれたのは、司書が中学校専任であったこと、今は小学校と中学校とを全員の学校司書が兼任をしているため、このような書評会は専任だからできた取組であった。それに対する時間と予算、熱心な先生たちがいてくださったからこそできた内容であったので、小学校と中学校と兼任をしている今のこの体制では、同じ規模で行うことは難しいのではないかと、ただ、とても良い取組ではあるので、今後何らかの形でやっていけたらよい。もしそれが可能であれば、読書活動の推進になるのではないかとこの意見だった。
- 座長：素晴らしい試みではあるが、制度と現実が許さないということが見えてきたようである。でも、今後取り組んでいきたいこととして書いていただくのがいいかと思う。学校司書の皆さんも実感的に素晴らしいと感じておられるということがよくわかった。
- では、次回に向けて、懇談会のテーマと分担について、事務局より説明を。

<議題4 次回懇談会のテーマ及び分担について>

○事務局：次の起草委員会が11月21日、中央図書館にて予定されており、本日委員からいただいたご意見を踏まえ、前文の言語化をしていただく。その後、12月5日に次回懇談会がイングビルで予定されており、議題は「YA世代を対象とした取組について」である。児童館、図書館、教育指導課の各課においては、このタイミングまでにそれぞれの課の取組について原案をご用意いただければと思う。会の2日前（12月3日）までに、事務局までメールでお送りいただきたい。懇談会後半は、全体案について精査したい。懇談会全8回のうち本日第5回までが終わったので、ここで、計画全体の進捗について少し振り返りながら確認させていただきたい。

「Ⅱ 乳幼児を対象とした取組」から「Ⅴ YA世代を対象とした取組」までは、12月5日懇談会後に、原案が全て取り揃うということになる。

目次の一番トップ、「はじめに」については、計画の内容がほぼ出揃った段階で、最後に執筆してはどうかというアイデアがあり、執筆者についてもその段階では保留になっていたと思うので、その確認をこれから取っていく。

「Ⅰ これまでの取組」については、「1 計画の位置づけ」と「3 アンケート調査の結果」は、図書館の方ですでに原案ができている。

「2 第4期計画の成果」については、各課の委員にすでに原案をご提出いただいております、図書館で取りまとめ中である。

「Ⅱ 計画の基本的な考え方」は、「1 計画策定の基本理念」を座長に、2と3については、図書館で取りまとめる。「2 読書活動推進のための基本方針」は、「学校図書館の一層の活用」を含め調整中である。

12月5日懇談会までには、今ご説明した全体案がほぼ取り揃えられるような状態で、委員の皆様にお目通しいただければと思っている。しかし、最終的に全体の原稿が揃った時点で、あらためて調整をとっていかなければならない部分も出てくるかと思う。

○委員：全体案について、12月5日までに出てくるという説明があったが、「Ⅴ YAを対象とした取組」については、12月3日までに図書館へ各課委員の方から原案が送られてきて、懇談会前日の4日ぐらいに、各委員のところに届くということによいか。

全体については、これまで様々な意見が出ており、文章量も多いので、もう少し早く委員にいただけるとありがたい。

○事務局：それでは、全体案の送付は1週間くらい前ではいかがか。

○図書館長：手続きの流れとして、全体案は、教育部の中で、途中経過を部長や教育長に説明する期間が必要である。ある程度案として出来上がったものは、内部の意見を踏まえた上で委員の方にお渡しできるような形で進めていきたい。

○事務局：おそらく全体を通して見たときに、バランスを見て各章を調整する必要が出てくるかと思う。そこから修正が入る期間も見越して、できるだけ前倒しで進めるよう努める。

○座長：それではこれで閉会としたい。皆様ご協力ありがとうございました。

次回策定懇談会日程 12月5日(金) 午後1時から イングビル 3階 第3会議室